

クイック特許調査報告書

(スタンダードプラン)

2024年3月12日

株式会社モズラボ

1. ご依頼内容

(本報告書はサンプルのため実際の依頼ではありませんが、給湯器について、出願人や技術トレンドを知りたいお客様をイメージして作成しました。)

2. 検索方針

給湯器について、出願人や発明の目的、熱負荷に着眼して出願数を調査した。給湯器の熱源の種類としては、燃烧式、ヒータ、ヒートポンプ、燃料電池、太陽熱等あるが、今回は全熱源を対象とした。(必要な範囲についてはご依頼時に指定ください。)

3. 検索日

2024年3月11日

4. 検索対象文献

日本特許文献：特許登録公報、公開・公表特許公報

5. 検索対象期間

出願日 2004年1月1日～2023年12月31日

6. 総スクリーニング件数

1881件

7. 調査結果

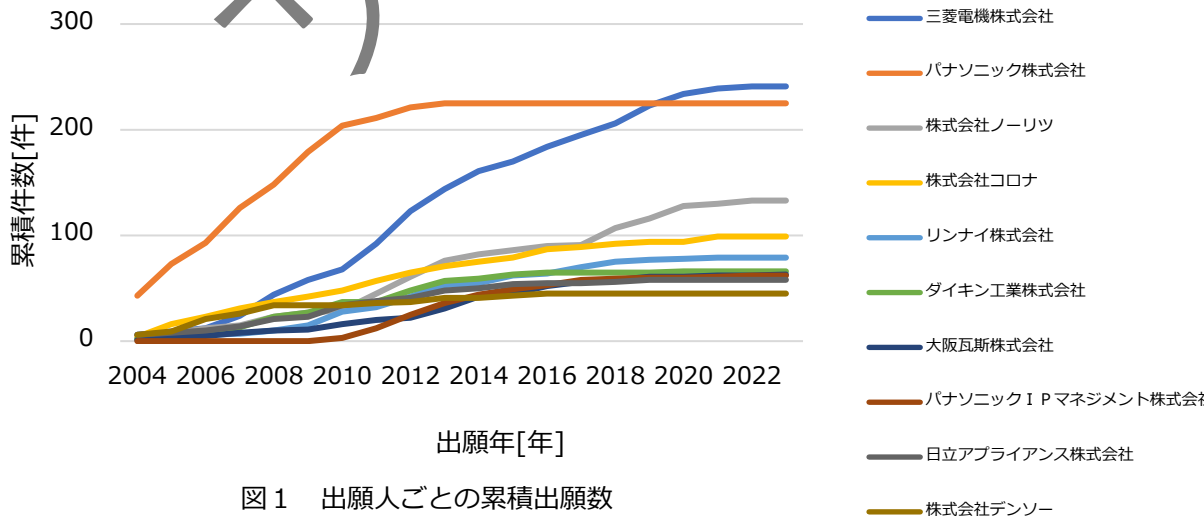


図1 出願人ごとの累積出願数

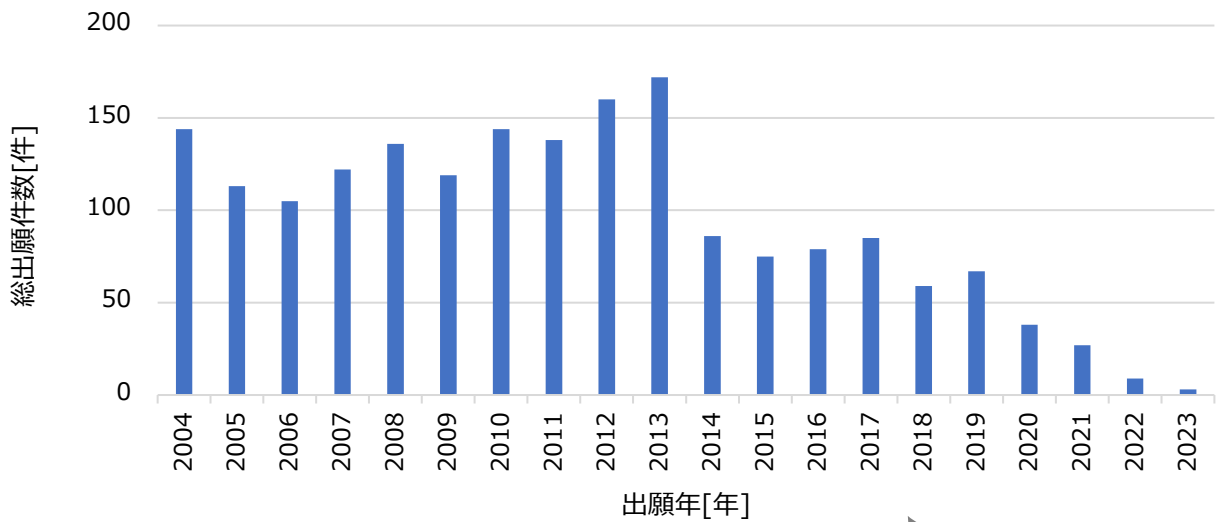


図2 総出願件数推移

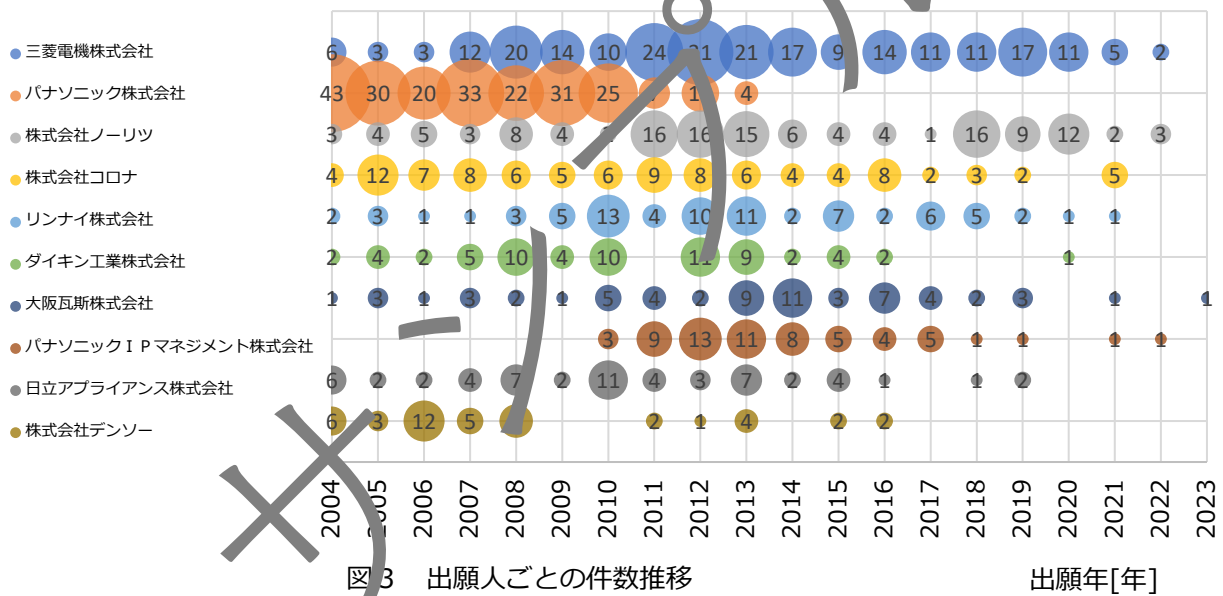


図3 出願人ごとの件数推移

表1 発明の目的ごとの件数

単位：件

	安全性の向上	耐久性, 信頼性	小型化/設備費の低減	構成/制御/操作の簡素化, 標準化	メンテナンス/撤去方法	現場施工/現場組立/試運転方法	検出精度の向上	災害対応	断水対策	製造方法	漏水対策	待機電力の削減
三菱電機株式会社	18	26	14	17	15	2	6	7	3	4	2	0
株式会社ノーリツ	22	8	2	7	6	8	6	5	2	1	1	1
株式会社ガスター	12	12	18	2	1	4	1	2	1	0	1	0
大阪瓦斯株式会社	8	7	4	6	3	6	1	1	1	1	0	0
株式会社コロナ	6	2	2	4	2	2	3	4	5	1	0	0
パナソニックIPマネジメント株式会社	6	3	6	5	4	3	0	1	1	1	0	0
リンナイ株式会社	11	5	0	2	3	4	2	1	1	0	0	0

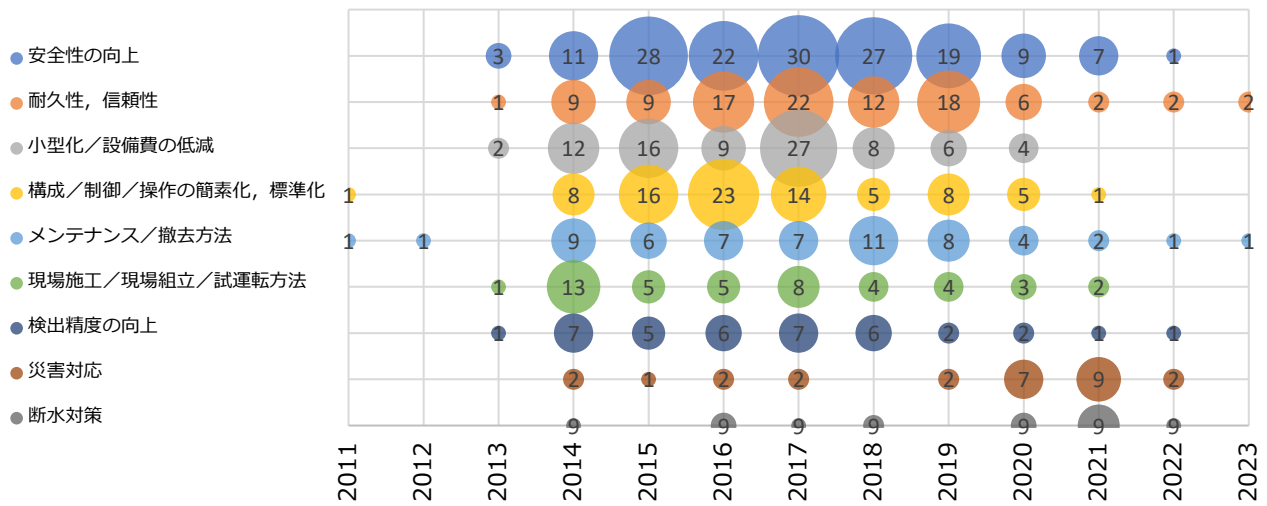


図4 発明の目的ごとの件数推移 出願年[年]

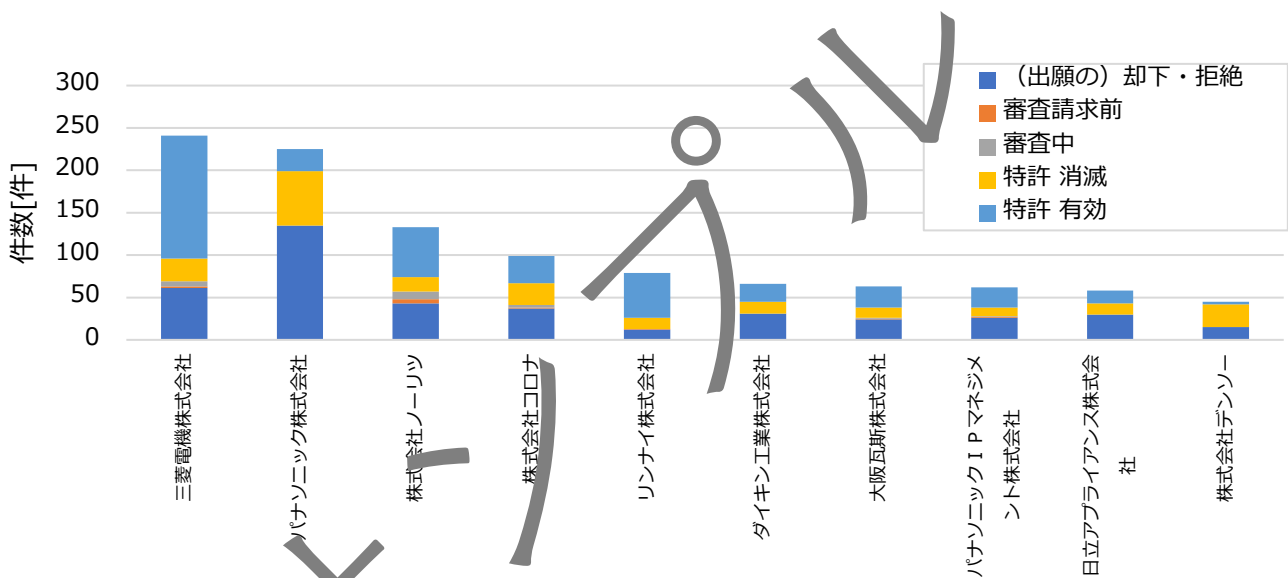


図5 出願人ごとの特許ステージ

表2 発明の目的と熱負荷の関係

単位：件

	風呂追焚	シャワー/ミスト	暖房
安全性の向上	22	11	7
耐久性, 信頼性	6	7	8
小型化/設備費の低減	5	8	4
構成/制御/操作の簡素化, 標準化	5	5	7
メンテナンス/撤去方法	4	1	3
検出精度の向上	5	7	4
現場施工/現場組立/試運転方法	1	4	0
断水対策	6	3	0
災害対応	4	2	0

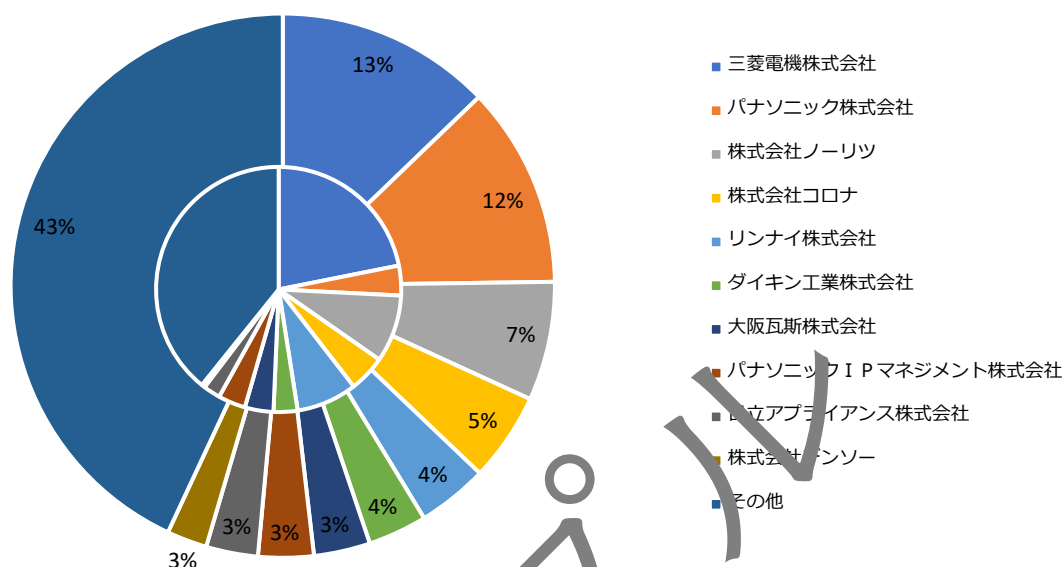


図6 出願人ごとの構成割合

(外側：出願総数に対する割合、内側：有効特許に対する割合)

8. まとめ

出願数1位の出願人は三菱電機となっている。ただし、パナソニックは知財業務を2014年からパナソニックIPマネジメントに移管しているため、パナソニックグループとしての出願数は三菱電機より多くなる。3位のノーリツは三菱電機・パナソニックの半分程度の出願数となっている(図1)。ところが、パナソニックグループは却下・拒絶された出願が多く、有効な特許件数は三菱電機の3分の1程度で、ノーリツよりも少ない(図5)。総出願件数の傾向を見ると2014年に大きく下がり、その後年々少なくなるトレンドとなっている(図2)。

出願人ごとの件数推移を見るとパナソニックグループの出願数が2014年以降少なくなっており、これが全体の総出願件数に大きく影響を及ぼしている。三菱電機は毎年一定以上の出願をしているが、ノーリツは出願が多い年と少ない年の差が激しい(図3)。

次に発明の目的について見てみる。古いものについては発明の目的のラベルが付与されていないため、付与されている最近10年のものについて調査した。発明の目的は全出願人では「安全性の向上」「耐久性、信頼性」の順に多い。個々の出願人を見るとリンナイは「安全性の向上」の割合が多く、ガスター(リンナイの子会社)では「小型化/設備費の低減」の割合が多い、三菱電機は「メンテナンス/撤去方法」の割合が多い(表1)。全出願人の件数推移を見ると、「災害対応」「断水対策」が2020年から増加しており、新たな技術テーマとなっていることがわかる(図4)。熱負荷については、「風呂追炊」「シャワー/ミスト」「暖房」の順に件数が多い。「風呂追炊」においては「断水対策」や「災害対応」の件数の割合が多い(表2)。